

このたびは当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただき、安全にご利用ください。



多機能型オイルドレーナー「見えるくん」No. GOD80B
オイルドレーナー [標準型] No. GOD80E
小型オイルドレーナー「持てるくん」No. GOD24B

取扱説明書

業務用

当社製品に共通する安全上のご注意.....	1	GOD24B.....	20
本製品に関する安全上のご注意.....	1	• 使用用途.....	20
• 取り扱い上のご注意.....	2	• 部位名称および本製品の仕様.....	20
• 製品の廃棄.....	2	• 梱包内容.....	20
GOD80B.....	3	• 保管方法.....	21
• 使用用途.....	3	• メンテナンス.....	21
• 部位名称および本製品の仕様.....	3	• 組立方法.....	21
• 梱包内容.....	4	• 使用方法.....	22
• 保管方法.....	4	• トラブルチェックポイント.....	24
• メンテナンス.....	4	• 補修部品.....	25
• 組立方法.....	5		
• 使用方法.....	6		
• トラブルチェックポイント.....	10		
• 補修部品.....	11		
GOD80E.....	12		
• 使用用途.....	12		
• 部位名称および本製品の仕様.....	12		
• 梱包内容.....	13		
• 保管方法.....	13		
• メンテナンス.....	13		
• 組立方法.....	13		
• 使用方法.....	15		
• トラブルチェックポイント.....	18		
• 補修部品.....	19		

この取扱説明書には以下のシグナルワードとその他標記記号を使用しています。

**警告**

誤った取り扱いをした場合、死亡または重傷を負うおそれがあります。

**注意**

誤った取り扱いをした場合、負傷または製品が損傷する原因になるおそれがあります。



禁止行為を表します。



必ずしてほしい行為を表します。



確認してほしい行為を表します。

当社製品に共通する安全上のご注意

**警告**

死亡または重傷を負うおそれがあります。



製品本来の使用用途以外には使用しない



分解および改造しない



外観上の異常や動作異常が認められた場合は使用しない



無理な姿勢で使用しない



安全に責任を負う監督者がいない状況で、子供など補助を必要とする人を作業場に近づけたり、触れさせたりしない



子供の手の触れるところで保管しない

本製品に関する安全上のご注意

**警告**

死亡または重傷を負うおそれがあります。

標記記号	事項	危害・損傷
	タンク内を加熱しない。	タンク内の廃油の温度が高くなると、火災が発生し、重傷を負うおそれがある。また、表面温度が高くなったタンクに触れると、やけどなどの重傷を負うおそれがある。
	廃油を排出する際は、急にタンクを傾けない。	廃油の温度が高い場合、噴き出した廃油が人体にかかり、やけどなどの重傷を負うおそれがある。
	下抜きをする際、GOD80B および GOD80E の廃油受皿に荷重を掛けない。	廃油受皿が落下したり、高温の廃油が人体にかかったりして負傷するおそれがある。また、製品が損傷するおそれがある。
	可燃性の高いガソリン・シンナー・ベンジン、腐食性の高いブレーキフルード、LLC、薬品などは吸引しない。	想定外の液体を吸引すると、製品が破損し、重傷を負うおそれがある。
	必ず平らで傾斜の無い場所に設置する。	不安定な場所で使用すると、製品が倒れるなどして重傷を負ったり、製品が損傷したりするおそれがある。
	保護めがねや作業用手袋などの保護具を使用する。	高温の廃油が目に入り、失明するおそれがある。また、高温の廃油に触れて、やけどなどの重傷を負うおそれがある。

**注意**

負傷または製品が損傷する原因になるおそれがあります。

標記記号	事項	危害・損傷	標記記号	事項	危害・損傷
	製品または作業対象部位に亀裂、変形などの異常が認められる場合は使用しない。	異常のある部分が破損し、負傷するおそれがある。		劣化したエアホースは使用しない。	負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。
	適用外の対象物や使用範囲外の部位には使用しない。	負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		製品に衝撃を加えるなど、外圧を与える行為は行わない。	外圧を加えることで製品が損傷し、負傷するおそれがある。
	タンクの容量以上の廃油を入れない。	高温の廃油があふれて負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		GOD80B および GOD80E の流入バルブは、排出時以外に閉じない。	高温の廃油が逆流し、廃油受皿からあふれて負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。

 注意 負傷または製品が損傷する原因になるおそれがあります。					
標記記号	事項	危害・損傷	標記記号	事項	危害・損傷
	GOD80B および GOD80E の廃油受皿の高さ調整時は、廃油受皿が落下しないように手で保持する。	廃油受皿が落下して負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		取扱説明書の手順に従って、各部の交換、清掃、定期的なメンテナンスを行う。	正しくメンテナンスしないと、製品が損傷し、負傷する恐れがある。
	組立時は周囲の安全を確保する。	安全が確保できていない環境で組み立てを実施すると、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		GOD80B および GOD80E の移動時は、廃油受皿が動かないように、ダイヤルナットを確実に締める。	廃油受皿が落下して負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。
	補修部品は当社の純正品を使用する。	純正品以外の補修部品を使用すると、製品が破損し、負傷するおそれがある。		移動時は、ハンドルをしっかり持つ。	製品が転倒して負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。
	タンク内が常圧の状態で保管する。	タンク内が加圧した状態や減圧した状態で保管すると、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		GOD24B を車両等に積載して移動する場合は、必ずベルト等で固定し転倒を防止する。	製品が落下、転倒して負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。
	GOD80B および GOD80E の廃油排出時は排出ホースのノズルが振動するため、しっかりと手で保持する。	製品が倒れる原因となり、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		製品を使用するうえで十分な能力のコンプレッサ、配管およびホースを使用する。	負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。
	各部のボルトやナットに緩みがないことを確認してから使用する。	部品が外れたり、製品が倒れる原因となり、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。		付属のエアレギュレーター、エアホースを使用する。	負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。

取り扱い上のご注意

これらを守らないと、製品や作業対象物の損傷や作動不良の原因となります。また、製品が本来の機能を発揮できなくなるおそれがあります。

- 高温、多湿な場所では使用しないでください。
- 化学薬品、海水、水分などを付着させたまま放置しないでください。
- 水がかかる場所で使用しないでください。
- 表示ラベルをはがさないでください。
- GOD80B および GOD80E を車載用として使用しないでください。
- GOD80B および GOD80E 廃油受皿にオイルフィルターなどの物を置かないでください。
- GOD80B および GOD80E の廃油排出時は、排出ホースのノズルキャップを抜いてください。
- エア配管にはフィルター、オイルを装備してください。
- コンプレッサの配管は定期的に清掃し、ドレインや水分を除去してください。

製品の廃棄

廃棄するときは各自治体の廃棄方法に従ってください。

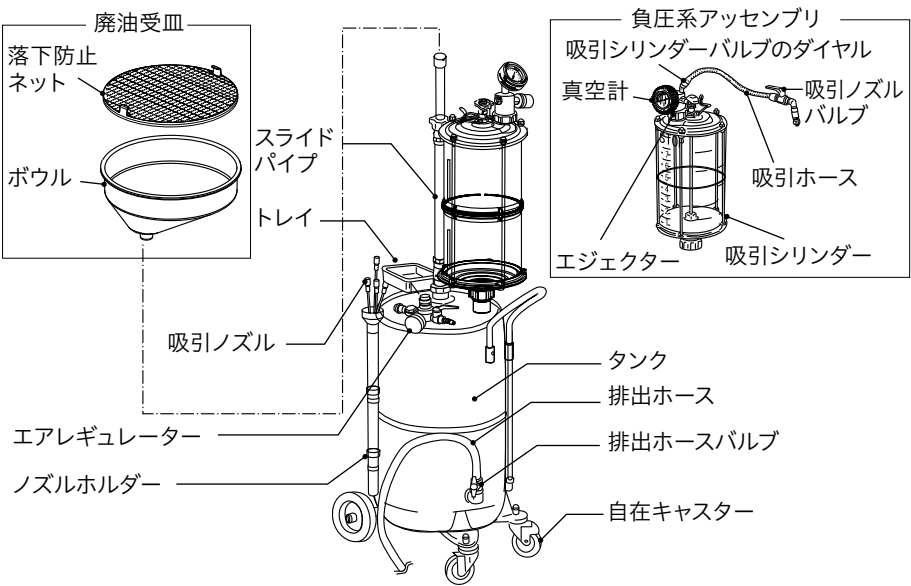
多機能型オイルドレーナー「見えるくん」No. GOD80B

使用用途

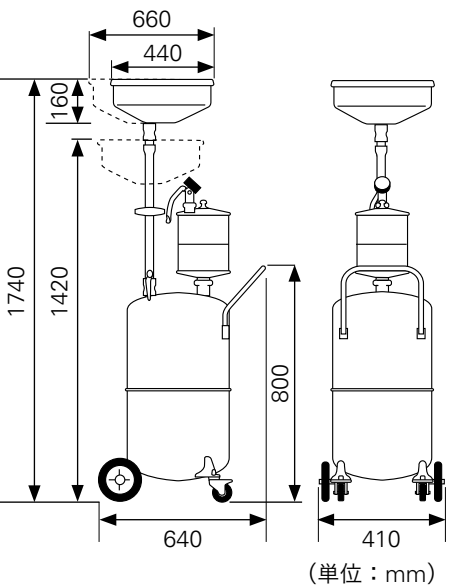
- 多機能型オイルドレーナー「見えるくん」No. GOD80Bは、自動車のエンジンオイル交換時に発生する、廃油抜き取り、搬送、排出作業を行うための自動車専用ツールです。
- 上抜きと下抜きの両方に対応しており、透明シリンダーで排出状態を一目で確認することができます。
- 軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車に使用することができます。
- 廃油受皿は大径のワイドハットで廃油を受けやすく、ネット付きのためタンクへの異物の落下を防ぐことができます。
- 廃油排出に便利なエア加圧式を採用しており、面倒なハンドル操作不要で排出できます。

部位名称および本製品の仕様

■部位名称



■製品寸法



■適用

軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車

■仕様

品名	No.	タンク		廃油受皿		キャスター径		入力用 エアカプラ	吸引ホース 外径・長さ	排出ホース 内径・長さ	廃油 排出方法	重量
		全容量	有効容量	容量	サイズ 外径×高さ	前方 (自在)	後方 (固定)					
多機能型 オイルドレーナー 「見えるくん」	GOD80B	80リットル	62リットル	12リットル	440× 160mm	φ80	φ150	日東工器 20PM	φ19 全長2m	φ19 全長2m	エア 加圧式	32kg

梱包内容

No.	名称	個数	No.	名称	個数	付属吸引ノズル	品番	個数
①	タンク	1	⑫	パイプハンドル	1	吸引ノズルフレキシブルφ5×700	GOD-5X700F	1
②	固定キャスター	2	⑬	パイプハンドル取り付けねじ	2	吸引ノズルフレキシブルφ6×700	GOD-6X700F	1
③	固定キャスター用Cリング	2	⑭	排出ホース	1	吸引ノズルフレキシブルφ7×1000	GOD-7X1000F	1
④	自在キャスター	2	⑮	排出ホース取り付けバンド	1	吸引ノズルフレキシブルφ8×700	GOD-8X700F	1
⑤	自在キャスター用ワッシャー	2	⑯	トレイ	1	吸引ノズルメタルφ5×700	GOD-5X700M	1
⑥	自在キャスター用袋ナット	2	⑰	ノズルホルダー	1	吸引ノズルメタルφ6×700	GOD-6X700M	1
⑦	エジェクター Assy+ 吸引ホース (赤)	1	⑱	排出用エアレギュレーター	1	吸引アダプター VW用	GOD-ADA	1
⑧	スライドパイプ	1	⑲	Oリング	2	吸引アダプター BMW用	GOD-ADB	1
⑨	廃油受皿 (ボウル)	1	⑳	取り付けボルト	1			
⑩	廃油受皿用落下防止ネット	1	㉑	取扱説明書	1			
⑪	吸引シリンダー Assy	1						

保管方法



- タンク内が常圧の状態 で保管する。タンク内が加圧した状態や減圧した状態 で保管すると、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。

- エアホースは取り外し、吸引ホースを巻き取ってハンドルにかけてください。
- 吸引ノズルはホルダーに収納してください。
- 長期間保管する場合はタンクの廃油を全容量排出し、転倒しないよう輪止め等でキャスターを固定させて保管してください。
- 平らな場所で保管してください。

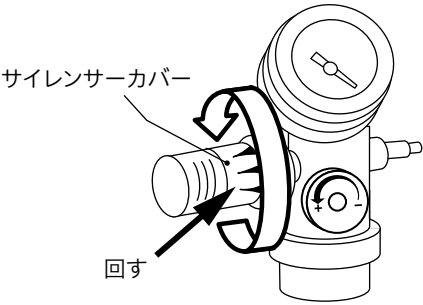
メンテナンス



- 長期間フィルターを清掃しなかったり、エアホースを接続したままの状態 で廃油の吸引をしない。エジェクターのフィルター部より廃油のミストが吹き出すことがあり、人体にかけると、肌が炎症するおそれがある。また、負圧が高まらなくなるおそれがある。

- 定期的にエジェクターのサイレンサーカバーを取り外して汚れを確認してください。
- 汚れはお湯などで清掃し、十分に乾燥させてから取り付けてください。

■サイレンサーカバーの取り外し方法



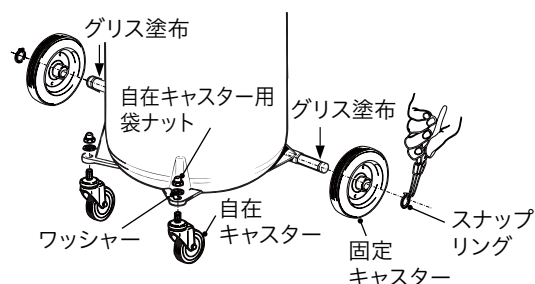
組立方法

① キャスターを取り付ける。

- タンク後方の両シャフトに固定キャスターを取り付け、スナップリングで固定する。
- 前方の穴位置に自在キャスターを取り付けてワッシャーを挟み、自在キャスター用袋ナットをレンチ等で締め付ける。(二面幅 19mm)

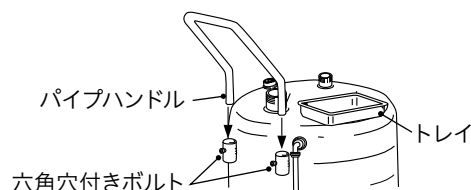


- 固定キャスターがスムーズに動かないときは、シャフトにグリスを少量塗布する。



② パイプハンドルとトレイを取り付ける。

- パイプハンドルを取り付け穴の底まで入れ、六角穴付きボルト (二面幅 5mm) で固定する。
- トレイをタンク上部に取り付ける。

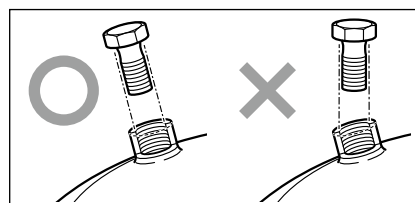
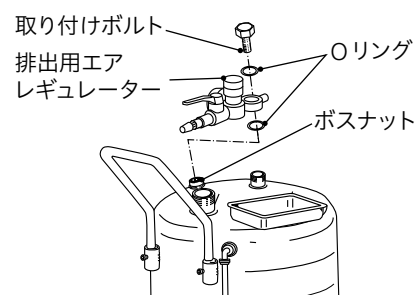


③ 排出用エアレギュレーターを取り付ける。

- 排出用エアレギュレーターを付属の取り付けボルト (二面幅 20mm) とOリングを使用して取り付ける。
- タンクのねじ穴に沿って、取り付けボルトを真っすぐ入れる。

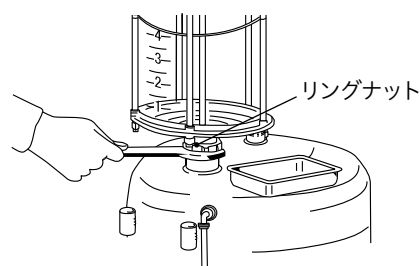


- 取り付けボルトは、レンチ等で締め付ける前に手で仮締めをする。
- 取り付けボルトは、斜めに取り付けられたボスナットと並行に締め付ける。ボスナットに対して真っすぐに取り付けないと、ボスナットのねじ山が破損するおそれがある。
- 取り付けボルトを誤った角度のまま、無理に取り付けようとするしない。



④ 負圧系アセンブリーを取り付ける。

- 負圧系アセンブリーをタンク背面側に取り付け、リングナットをパイプレンチ等で締め付けて固定する。

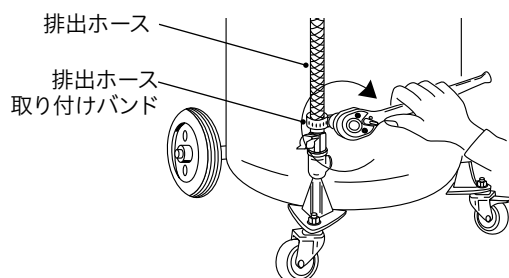


⑤ 排出ホースを取り付ける。

- タンク底部にある排出ホースバルブに排出ホースを接続し、排出ホース取り付けバンドで固定する。(二面幅 7mm)



- 排出ホース取り付けバンドは、廃油が漏れないようにソケットレンチ等でしっかりと締め付ける。



⑥ スライドパイプを取り付ける。

- スライドパイプをタンク正面側に取り付け、リングナットをパイプレンチ等で締め付けて固定する。



- スライドパイプのリングナットは、パイプレンチ等でしっかりと締め付ける。

⑦ 廃油受皿を取り付ける。

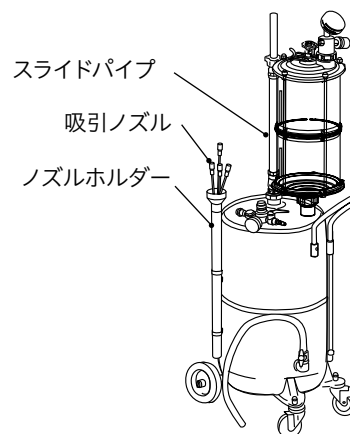
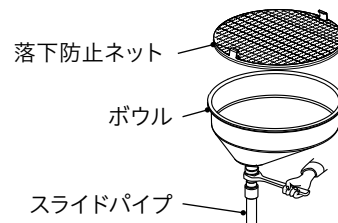
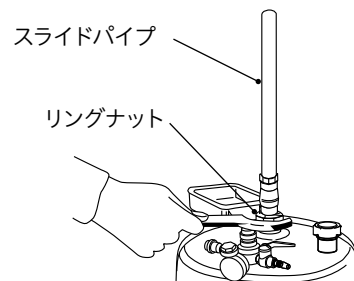
- スライドパイプにボウルをねじ込み、レンチ等で締め付けて固定する。(パイプ側ナット二面幅38mm)



- ボウルは、レンチ等でしっかりと締め付ける。
- 廃油受皿を上下させにくい場合は、スライドパイプしゅう動部にグリスを少量塗布する。

⑧ ノズルホルダーを取り付ける。

- タンクのリング部にノズルホルダーを取り付け、吸引ノズルを収納する。



使用方法

■「廃油下抜き作業」時の使用方法

○廃油受皿高さ調整

- 水平で安定した場所にGOD80Bを置く。
- 廃油受皿が落下しないように手で保持する。
- ダイヤルナットを緩める。(図1-1)



- ダイヤルナットを緩めると廃油受皿が下がる場合があるため、頭などを打たないように注意する。

- ドレンプラグの真下にスライドパイプが来るよう本体位置を調整し、位置の調整が完了したら廃油受皿の高さを調整する。(図1-2)



- ドレンプラグの角度や廃油温度によって、廃油の排出方向や排出流速が異なるため、廃油受皿の位置や高さを調整して、廃油が飛び散らないようにする。



- 廃油の飛び散りを防止するため、廃油受皿を車両のタイヤ底面位置よりも高い位置にセットする。

- ダイヤルナットを締めて、スライドパイプの動きを固定する。



- 高さ調整は、廃油受皿を保持して行う。
- ダイヤルナットを確実に締める。

図1-1

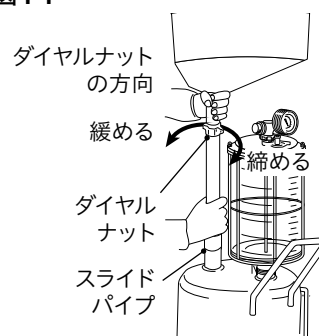
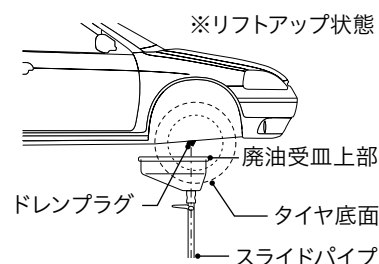


図1-2



○廃油を受ける

- ① 流入バルブが開いていることを確認する。(図2)
- ② 吸引シリンダーバルブが緩めてあり、フックで押し込まれていることを確認する。(エア抜きのため)(図3)
- ③ ドレンプラグの位置、方向を確認し、ドレンプラグを緩めて取り外す。



- 廃油をレベルゲージのSTOPラインより多くタンク内に入れない。
- 廃油受皿にオイルフィルターなどを置かない。

■「廃油上抜き作業」時の使用方法

○抜き取り準備

- ① 水平で安定した場所にGOD80Bを置く。
- ② 作業を行う車両を、水温が安定するまで暖機運転する。



- エンジン停止後、間もない場合はそのまま作業ができる。
- 暖機運転後は、水温が安定したらエンジンを停止し、手順③に進む。

- ③ 吸引シリンダー内の残油を排出する。排出手順については、「**■吸引シリンダーの廃油排出**」(8 ページ)を参照する。
- ④ エア漏れが発生しないように、流入バルブ、排出ホースバルブ、吸引ノズルバルブ、吸引シリンダーバルブ、エアレギュレーターバルブをすべて閉じる。(図4)
- ⑤ エアホースをエジェクターへ接続する。
- ⑥ 真空計の針がグリーンゾーンに到達し、針が安定したことを確認する。(図5)



- エジェクターは0.6～0.7 MPa (6～7 kgf/cm²) 付近で最高効率となる。末端のエア圧力が低い場合はグリーンゾーンへ到達しない場合があり、その状態で使用すると吸引時間が長くなる。
- 末端のエア圧力が高い場合も低い場合と同じ状態になるため、エアレギュレーターを使用してエア圧力を0.6～0.7 MPaに調整する。

推奨エアレギュレーター

メーカー名	品番
SMC	ARX20-02
	G46-10-02
	(メーター)

図2

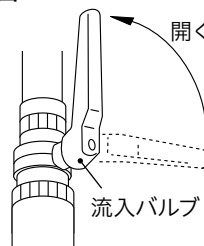


図3

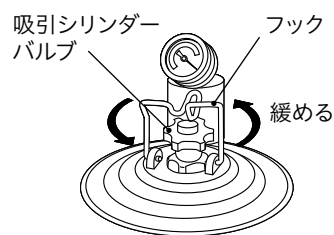


図4

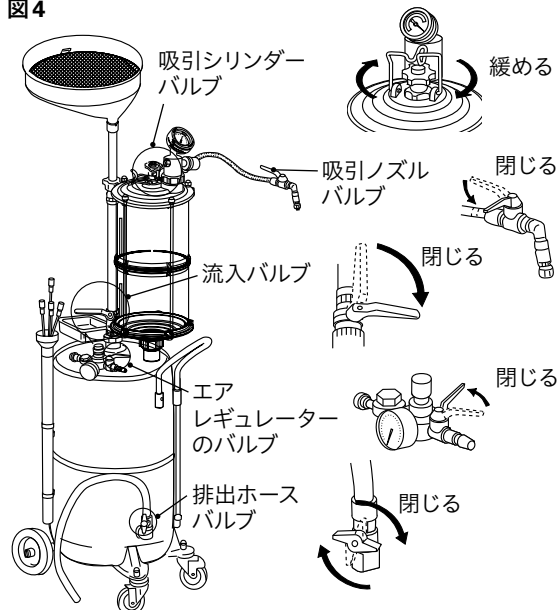
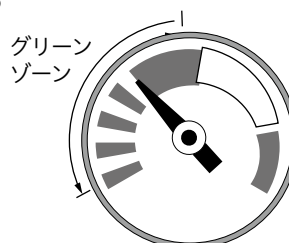


図5



○抜き取り作業



- 吸引ホース、吸引ノズルをエンジンの排気管等からの高熱にさらさない。



- エンジンの構造や、吸引ノズルの曲がり具合により、全量を吸引できない場合がある。
- メタルタイプの吸引ノズルは、ペール缶等の容器からの抜き取り専用のため、メタルタイプの吸引ノズルをエンジンに挿入しない。
- フレキシブルタイプの吸引ノズルでも太すぎるものを無理やりレベルゲージのガイドパイプに挿入しない。
- 吸引シリンダー内の廃油は泡立つが、吸引シリンダーを大気解放すると、気泡がなくなる。

① 作業を行うエンジンのオイルフィルターキャップを外す。

② レベルゲージを抜く。

③ 吸引ノズルを選択する。



- レベルゲージの首下長さとガイドパイプの内径から、最適な太さと長さの吸引ノズルを選択する。
- 吸引ノズルの長さは、レベルゲージの首下長さより約5cm長めを目安とする。

④ レベルゲージのガイドパイプに吸引ノズルを挿入する。(図6)



- 吸引ノズルは必ずオイルパン最低部に到達させる。

⑤ 吸引ノズルを少しずつ出し入れし、オイルパンに底当たりする位置で止める。

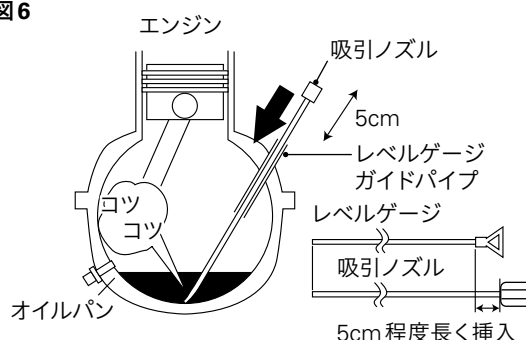
⑥ 吸引ホースのノズルキャップを外し、吸引ノズルと吸引ホースを接続する。

⑦ 吸引ノズルバルブを開けて、廃油を吸引シリンダーに抜き取る。



- 残量レベルゲージを確認しながら抜き取り作業を実施する。廃油量がレベルゲージのSTOPラインに達したら吸引を中止し、吸引シリンダー内の廃油を排出する。排出手順については、「**■吸引シリンダーの廃油排出**」(8ページ)を参照する。

図6



⑧ 吸引ノズル内を気泡が流れ始めたら、吸引ノズルをゆっくりと±5cm程度出し入れして吸い残しがないか確認する。

⑨ 吸引ノズルを出し入れして、再度廃油を吸引し始めたら、その位置で吸引ノズルを止め、⑧の作業を数回繰り返す。

⑩ 廃油の流れがなくなったら、吸引ノズルバルブを閉じ、吸引ノズルから吸引ホースを取り外してノズルキャップを装着する。

⑪ 吸引ノズルを抜き、レベルゲージをガイドパイプに戻す。

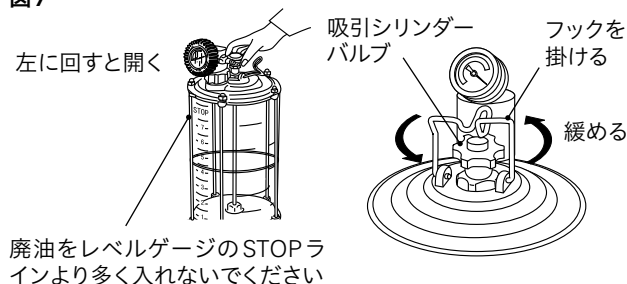
■吸引シリンダーの廃油排出

○廃油排出

① タンクの空き容量が10リットル以上あることを確認する。

② 吸引シリンダーバルブのダイヤルを左方向へ回転させて大気開放し、ダイヤルを押し込むとタンクと吸引シリンダーが導通され、タンク内へ廃油が落下する。(図7)

図7



- ダイヤルを押し込んだ状態でダイヤルにフックを掛けると、タンクと吸引シリンダーが導通した状態で保持され、手を離しても廃油をタンクへ排出できる。

■廃油の排出方法

○排出準備

- ① 流入バルブ、排出ホースバルブ、吸引シリンダーバルブ、エアレギュレーターのバルブをすべて閉じる。(図8)
- ② 排出先(ドラム缶、廃油槽等)の空き容量が十分か確認する。
- ③ 排出ホースのノズルキャップを抜き、排出先へ挿入する。



- ノズルキャップを外す際、廃油が垂れないようウエスなどを当てる。

○排出する

- ① 排出ホースが排出先(ドラム缶、廃油槽等)から外れないよう手で保持する。(図8)
- ② エアホースを接続する。
- ③ 排出ホースバルブを開ける。
- ④ エアレギュレーターバルブを開ける。
- ⑤ 排出が終了したらエアホースを外し、排気音が停止してから、排出ホースバルブを閉じる。



- 廃油排出終了後は排気音が停止するまで閉じていたバルブは開けない。
- 廃油排出時以外は流入バルブを閉じない。

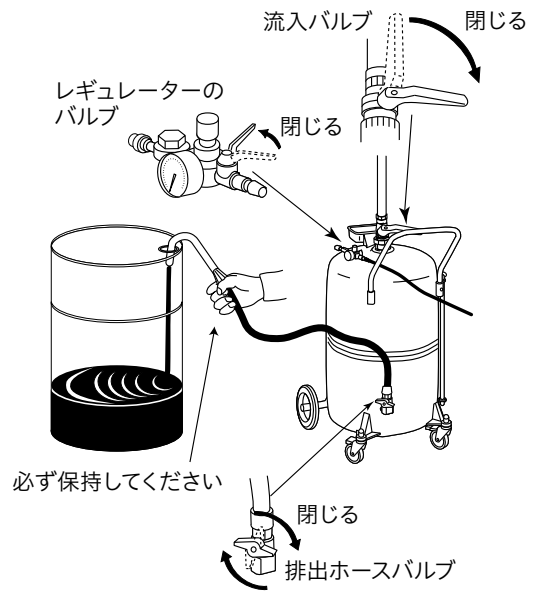


- 製品のタンク内の廃油が空になる(排出終了)寸前に、廃油と空気が混合して排出されるため、排出ホースのノズルが振動する。排出中は必ず排出ホースのノズルを保持する。
- 緊急に排出を停止したい場合は、排出ホースバルブを閉じる。
- 排出操作を誤ると、逆流して廃油が飛散したり霧状の廃油をまき散らす原因になるため、手順を守る。
- 減圧後の入力空圧(空圧計表示圧)は、0.1 MPa (1 bar/1 kgf/cm²) 以下で使用する。



- 廃油排出速度は廃油温度により変化するため、なるべく廃油温度が冷えていない終業時に排出を行う。
- 排出ホースはタンクの底まで伸びたパイプに接続されており、レベルゲージより下の廃油も排出できる。
- 吸引ホースを抜き取る際は、強く引き抜かない。ホースがちぎれて取り出せなくなるおそれがある。
- ホース類は擦れないよう巻き取って固定する。

図8



トラブルチェックポイント

本来の性能が得られなくなった場合は、次の要領で確認してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達しない。

- A.** 空気を吸っていることが考えられますので下記の点を確認してください。
- 吸引ホースの吸引ノズルバルブを確実に閉じる。
 - 吸引ホースなどのつなぎ目が緩んでいる場合は、増し締めをする。
- A.** 入力エア圧が不適切である場合が考えられます。
- 推奨エアレギュレーター（※）を使用し、入力エア圧を0.6～0.7 MPa（6～7 kgf/cm²）に調整する。
※推奨エアレギュレーターについては「■「廃油上抜き作業」時の使用方法」（7 ページ）を参照してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達したが、「廃油を吸引しない」または「吸引に時間がかかる」。

- A.** 吸引ノズルやエジェクターのサイレンサー部、カプラ部に異物が詰まっていることが考えられます。
- エアブロー等で清掃する。
- A.** オイルが硬いことが考えられます。
- 特に冬期はエンジンオイルが硬くなり、吸引に時間がかかる。作業を行う前に、水温が安定するまで暖機運転した後、エンジンを止めて作業をする。

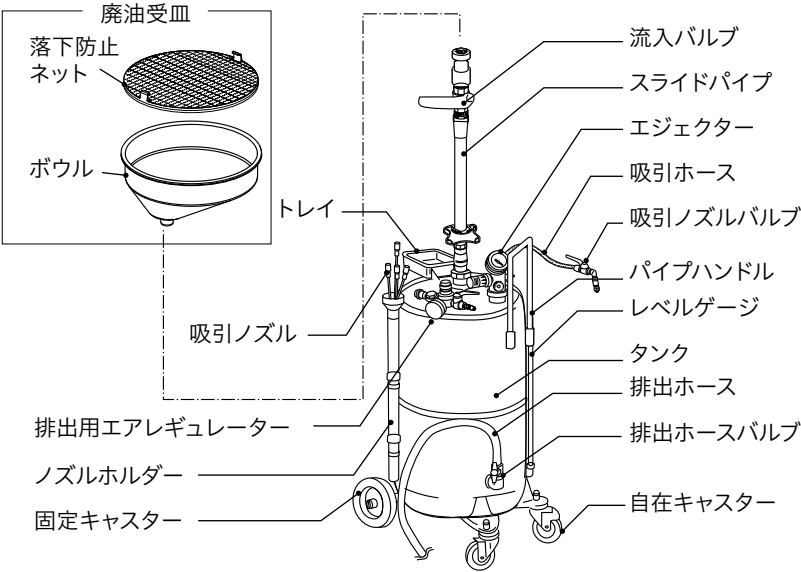
オイルドレーナー [標準型] No. GOD80E

使用用途

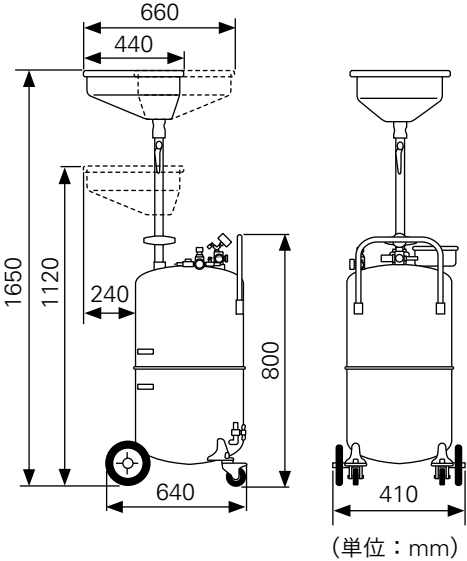
- オイルドレーナー [標準型] No. GOD80Eは、自動車のエンジンオイル交換時に発生する、廃油抜き取り、搬送、排出作業を行うための自動車専用ツールです。
- 上抜きと下抜きの両方に対応した標準型のオイルドレーナーです。
- 軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車に使用することができます。
- 廃油受皿は大径のワイドハットで廃油を受けやすく、ネット付きのためタンクへの異物の落下を防ぐことができます。
- 廃油排出に便利なエア加圧式を採用しており、面倒なハンドル操作不要で排出できます。

部位名称および本製品の仕様

■部位名称



■製品寸法



■適用

軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車

■仕様

品名	No.	タンク		廃油受皿		キャスター径		入力用	吸引ホース 外径・長さ	排出ホース 内径・長さ	廃油 排出方法	重量
		全容量	有効容量	容量	サイズ 外径×高さ	前方 (自在)	後方 (固定)	エアカプラ				
オイルドレーナー [標準型]	GOD80E	80リットル	62リットル	12リットル	440×160mm	φ80	φ150	日東工器 20PM	φ19 全長2m	φ19 全長2m	エア 加圧式	29kg

梱包内容

No.	名称	個数	No.	名称	個数	付属吸引ノズル	品番	個数
①	タンク	1	⑪	パイプハンドル	1	吸引ノズルフレキシブルφ5×700	GOD-5X700F	1
②	固定キャスター	2	⑫	パイプハンドル用六角穴付きボルト	2	吸引ノズルフレキシブルφ6×700	GOD-6X700F	1
③	固定キャスター用Cリング	2	⑬	排出ホース	1	吸引ノズルフレキシブルφ7×1000	GOD-7X1000F	1
④	自在キャスター	2	⑭	排出ホース取り付けバンド	1	吸引ノズルフレキシブルφ8×700	GOD-8X700F	1
⑤	自在キャスター用ワッシャー	2	⑮	トレイ	1	吸引ノズルメタルφ5×700	GOD-5X700M	1
⑥	自在キャスター用袋ナット	2	⑯	ノズルホルダー	1	吸引ノズルメタルφ6×700	GOD-6X700M	1
⑦	エジェクター Assy+吸引ホース(赤)	1	⑰	排出用エアレギュレーター	1	吸引アダプター VW用	GOD-ADA	1
⑧	スライドパイプ	1	⑱	排出エアレギュレーター Oリング	2	吸引アダプター BMW用	GOD-ADB	1
⑨	廃油受皿(ボウル)	1	⑲	取り付けボルト	1			
⑩	廃油受皿用落下防止ネット	1	⑳	取扱説明書	1			

保管方法



- タンク内が常圧の状態 で保管する。タンク内が加圧した状態や減圧した状態で保管すると、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。

- エアホースは取り外し、吸引ホースを巻き取ってハンドルにかけてください。
- 吸引ノズルはホルダーに収納してください。
- 長期間保管する場合はタンクの廃油を全容量排出し、転倒しないよう輪止め等でキャスターを固定させて保管してください。
- 平らな場所で保管してください。

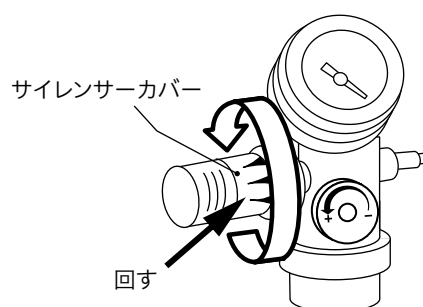
メンテナンス



- 長期間フィルターを清掃しなかったり、エアホースを接続したままの状態 で廃油の吸引をしない。エジェクターのフィルター部より廃油のミストが吹き出すことがあり、人体にかけると、肌が炎症するおそれがある。また、負圧が高まらなくなるおそれがある。

- 定期的にエジェクターのサイレンサーカバーを取り外して汚れを確認してください。
- 汚れはお湯などで清掃し、十分に乾燥させてから取り付けてください。

■サイレンサーカバーの取り外し方法



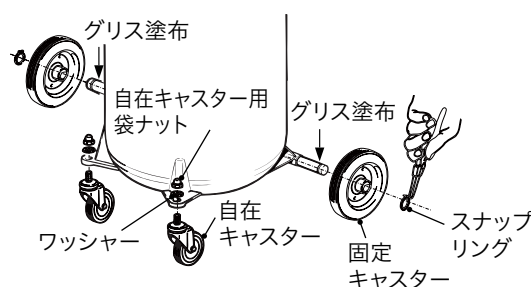
組立方法

①キャスターを取り付ける。

- タンク後方の両シャフトに固定キャスターを取り付け、スナップリングで固定する。
- 前方の穴位置に自在キャスターを取り付けてワッシャーを挟み、自在キャスター用袋ナットをレンチ等で締め付ける。(二面幅 19mm)

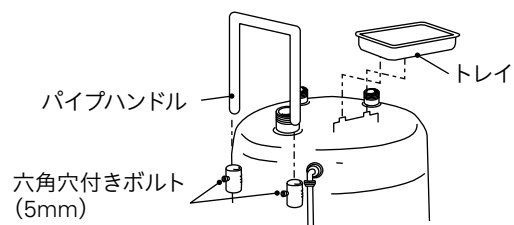


- 固定キャスターがスムーズに動かないときは、シャフトにグリスを少量塗布する。



②パイプハンドルとトレイを取り付ける。

- パイプハンドルを取り付け穴の底まで入れ、六角穴付きボルト (二面幅 5mm) で固定する。
- トレイをタンク上部に取り付ける。

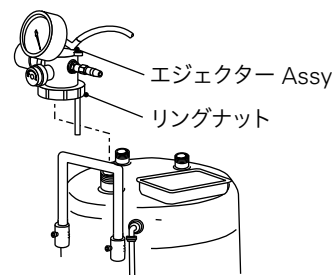


③エジェクター Assyを取り付ける。

- エジェクター Assyをタンク前側 (パイプハンドル取り付け側) に取り付け、リングナットをパイプレンチ等で締め付けて固定する。



- エジェクター Assyのリングナットはパイプレンチ等でしっかりと締め付ける。

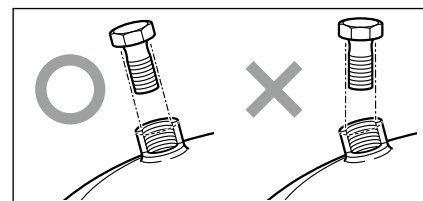
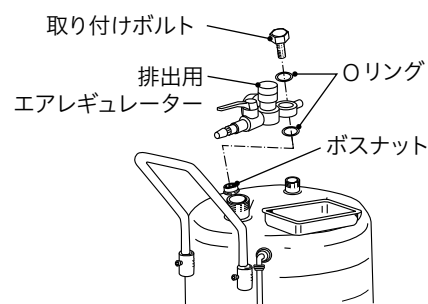


④排出用エアレギュレーターを取り付ける。

- 排出用エアレギュレーターを付属の取り付けボルト (二面幅 20mm) とOリングを使用して取り付け。
- タンクのねじ穴に沿って、取り付けボルトを真っすぐ入れる。



- 取り付けボルトは、レンチ等で締め付ける前に手で仮締めをする。
- 取り付けボルトは、斜めに取り付けられたボスナットと並行に締め付ける。ボスナットに対して真っすぐに取り付けしないと、ボスナットのねじ山が破損するおそれがある。
- 取り付けボルトを誤った角度のまま、無理に取り付けようとしない。

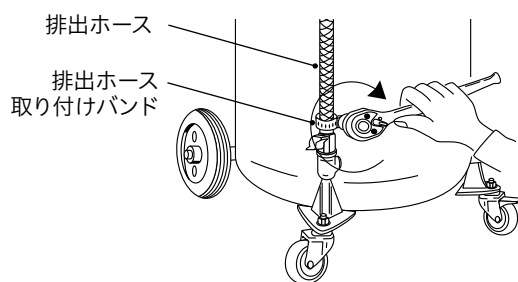


⑤排出ホースを取り付ける。

- タンク底部にある排出ホースバルブに排出ホースを接続し、排出ホース取り付けバンドで固定する。(二面幅 7mm)



- 排出ホース取り付けバンドは、廃油が漏れないようにソケットレンチ等でしっかりと締め付ける。

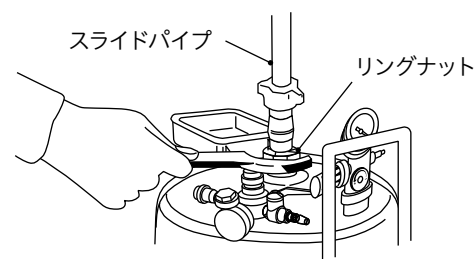


⑥スライドパイプを取り付ける。

- スライドパイプをタンク正面側に取り付け、リングナットをパイプレンチ等で締め付けて固定する。



- スライドパイプのリングナットは、パイプレンチ等でしっかりと締め付ける。



⑦ 廃油受皿を取り付ける。

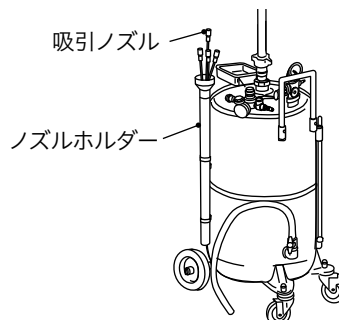
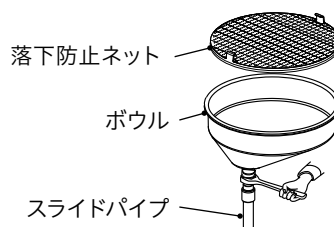
- スライドパイプにボウルをねじ込み、レンチ等で締め付けて固定する。(パイプ側ナット二面幅38mm)



- ボウルは、レンチ等でしっかりと締め付ける。
- 廃油受皿を上下させにくい場合は、スライドパイプしゅう動部にグリスを少量塗布する。

⑧ ノズルホルダーを取り付ける。

- タンクのリング部にノズルホルダーを取り付け、吸引ノズルを収納する。



使用方法

■「廃油下抜き作業」時の使用方法

○廃油受皿高さ調整

- ① 水平で安定した場所にGOD80Eを置く。
- ② 廃油受皿が落下しないように手で保持する。
- ③ ダイヤルナットを緩める。(図1-1)



- ダイヤルナットを緩めると廃油受皿が下がる場合があるため、頭などを打たないように注意する。

- ④ ドレンプラグの真下にスライドパイプが来るよう本体位置を調整し、位置の調整が完了したら廃油受皿の高さを調整する。(図1-2)



- ドレンプラグの角度や廃油温度によって、廃油の排出方向や排出流速が異なるため、廃油受皿の位置や高さを調整して、廃油が飛び散らないようにする。



- 廃油の飛び散りを防止するため、廃油受皿を車両のタイヤ底面位置よりも高い位置にセットする。

- ⑤ ダイヤルナットを締めて、スライドパイプの動きを固定する。



- 高さ調整は、廃油受皿を保持して行う。
- ダイヤルナットを確実に締める。

○廃油を受ける

- ① 流入バルブが開いていることを確認する。(図2)
- ② 排出用エアレギュレーターのバルブが開いていることを確認する。(エア抜きのため)(図3)
- ③ ドレンプラグの位置、方向を確認し、ドレンプラグを緩めて取り外す。



- 廃油をレベルゲージのSTOPラインより多くタンク内に入れない。
- 廃油受皿にオイルフィルターなどを置かない。

図1-1

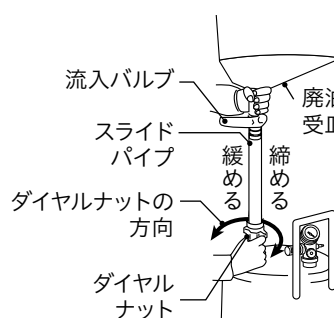


図1-2

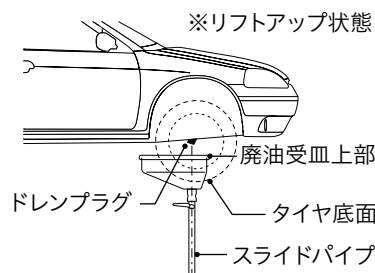


図2

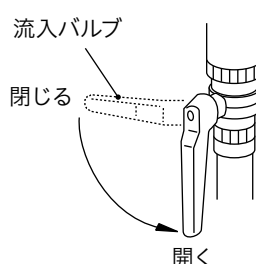


図3



■「廃油上抜き作業」時の使用方法

○抜き取り準備

- ① 水平で安定した場所にGOD80Eを置く。
- ② 作業を行う車両を、水温が安定するまで暖機運転する。

☒	- エンジン停止後、間もない場合はそのまま作業ができる。 - 暖機運転後は、水温が安定したらエンジンを停止し、手順③に進む。
-------------------------------------	---

- ③ タンク内の廃油を残量レベルゲージで確認する。
廃油を排出する場合は、「■廃油の排出方法」(17 ページ)を参照する。
- ④ ダイヤルナットを緩め、廃油受皿を上限いっぱいまで引き上げる。
(スライドパイプがカチッと鳴る。)(図4)
- ⑤ ダイヤルナットを締めて廃油受皿を固定する。
- ⑥ エア漏れが発生しないように、流入バルブ、排出ホースバルブ、吸引ノズルバルブ、排出用エアレギュレーターのバルブをすべて閉じる。(図5)
- ⑦ エアホースをエジェクターへ接続する。
- ⑧ エジェクターのダイヤルを左回転(反時計回り)いっぱいに回す。
(図6)
- ⑨ 真空計の針がグリーンゾーンに到達し、針が安定したことを確認する。(図7)

☒	- エジェクターは0.6～0.7 MPa (6～7 kgf/cm²) 付近で最高効率となる。末端のエア圧力が低い場合はグリーンゾーンへ到達しない場合があり、その状態で使用すると吸引時間が長くなる。 - 末端のエア圧が高い場合も低い場合と同じ状態になるため、エアレギュレーターを使用してエア圧力を0.6～0.7 MPaに調整する。
-------------------------------------	--

図4

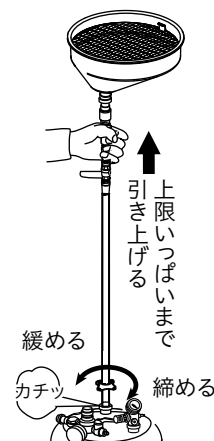


図5

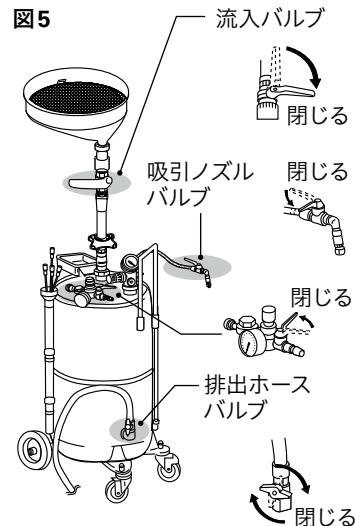


図6

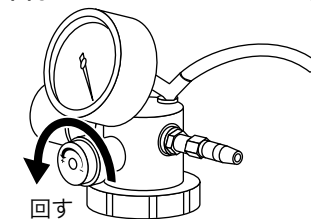
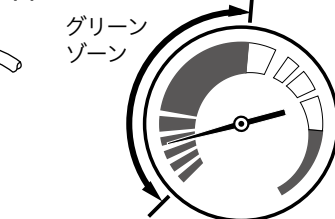


図7



推奨エアレギュレーター

メーカー名	品番
SMC	ARX20-02
	G46-10-02
	(メーター)

○抜き取り作業

☐	吸引ホース、吸引ノズルをエンジンの排気管等からの高熱にさらさない。
☒	- エンジンの構造や、吸引ノズルの曲がり具合により、全量を吸引できない場合がある。 - メタルタイプの吸引ノズルは、ペール缶等の容器からの抜き取り専用のため、メタルタイプの吸引ノズルをエンジンに挿入しない。 - フレキシブルタイプの吸引ノズルでも太すぎるものを無理やりレベルゲージのガイドパイプに挿入しない。

- ① 作業を行うエンジンのオイルフィルターキャップを外す。
- ② レベルゲージを抜く。
- ③ 吸引ノズルを選択する。

☐	- レベルゲージの首下長さとガイドパイプの内径から、最適な太さと長さの吸引ノズルを選択する。 - 吸引ノズルの長さは、レベルゲージの首下長さより約5cm長めを目安とする。(図8)
--------------------------	--

④ レベルゲージのガイドパイプに吸引ノズルを挿入する。



- 吸引ノズルは必ずオイルパン最低部に到達させる。

⑤ 吸引ノズルを少しずつ出し入れし、オイルパンに底当たりする位置で止める。(図9)

図8

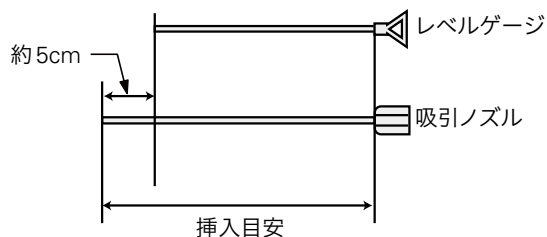
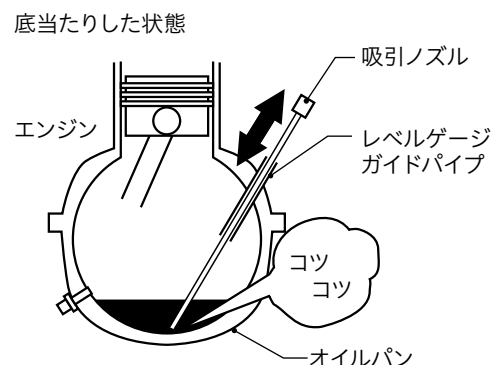


図9



⑥ 吸引ホースのノズルキャップを外し、吸引ノズルと吸引ホースを接続する。

⑦ 吸引ノズルバルブを開けて、廃油をタンクに抜き取る。



- 残量レベルゲージを確認しながら抜き取り作業を実施する。タンクの廃油量がレベルゲージのSTOPラインに達したら吸引を中止し、タンク内の廃油を排出する。排出手順については、「■廃油の排出方法」(17 ページ)を参照する。

⑧ 吸引ノズル内を気泡が流れ始めたら、吸引ノズルをゆっくりと±5cm程度出し入れして吸い残しがないか確認する。

⑨ 吸引ノズルを出し入れして、再度廃油を吸引し始めたら、その位置で吸引ノズルを止め、⑧の作業を数回繰り返す。

⑩ 廃油の流れがなくなったら、吸引ノズルバルブを閉じ、吸引ノズルから吸引ホースを取り外してノズルキャップを装着する。

⑪ 吸引ノズルを抜き、レベルゲージをガイドパイプに戻す。

■廃油の排出方法

○排出準備

① ダイヤルナットを緩め、廃油受皿を上限いっぱいまで引き上げる。(スライドパイプがカチッと鳴る。)(図10)

② ダイヤルナットを締めて固定する。

③ 流入バルブ、排出ホースバルブ、吸引ノズルバルブ、排出用エアレギュレーターのバルブをすべて閉じる。(図11)

④ 排出先(ドラム缶、廃油槽等)の空き容量が十分か確認する。

⑤ エジェクターのダイヤルを右回転(時計回り)いっぱいに戻す。(図12)

⑥ 排出ホースのノズルキャップを抜き、排出先へ挿入する。



- ノズルキャップを外す際、廃油が垂れないようウエスなどを当てる。

図10

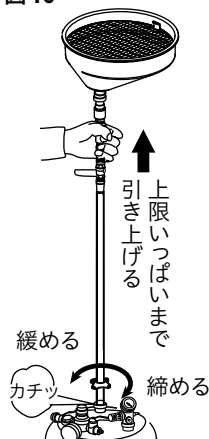


図11

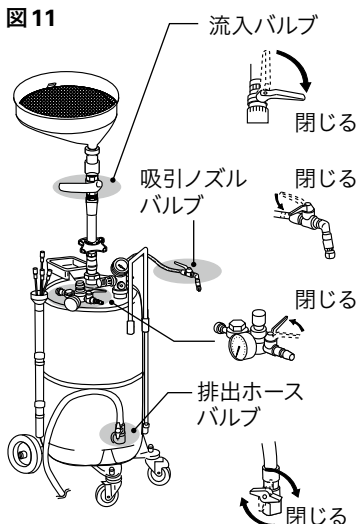
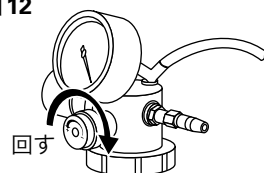


図12



○排出する

- ①エアホースを排出用エアレギュレーターに接続する。(図13)
- ②排出ホースバルブを開く。(図14)
- ③排出ホースが排出先(ドラム缶、廃油槽等)から外れないよう手で保持する。(図15)
- ④排出用エアレギュレーターのバルブをゆっくり開ける。(図16)
- ⑤排出が終了したらエアホースを外し、排気音が停止してから、排出ホースバルブを閉じる。



- 廃油排出終了後は排気音が停止するまで流入バルブと、タンクキャップを開けない。
- 廃油排出時以外は流入バルブを閉じない。



- 製品のタンク内の廃油が空になる(排出終了)寸前に、廃油と空気が混合して排出されるため、排出ホースのノズルが振動する。排出中は必ず排出ホースのノズルを保持する。
- 緊急に排出を停止したい場合は、排出ホースバルブを閉じる。
- 排出操作を誤ると、逆流して廃油が飛散したり霧状の廃油をまき散らす原因になるため、手順を守る。
- 減圧後の入力空圧(空圧計表示圧)は、0.1 MPa (1 bar / 1 kgf/cm²) 以下で使用する。



- 吸引ホースを抜き取る際は、強く引き抜かない。ホースがちぎれて取り出せなくなるおそれがある。
- 廃油排出速度は廃油温度により変化するため、なるべく廃油温度が冷えていない終業時に排出を行う。
- 排出ホースはタンクの底まで伸びたパイプに接続されており、レベルゲージより下の廃油も排出できる。
- ホース類は擦れないよう巻き取って固定する。

■移動方法

- ①スライドパイプのダイヤルナットを緩め、廃油受皿を下限まで降ろす。
- ②吸引ホースおよび排出ホースをパイプハンドルに掛ける。
- ③パイプハンドルを持って、押して移動させる。



- 吸引ノズルなどから廃油が垂れないように、ウエスなどで拭いてから移動させる。

図13

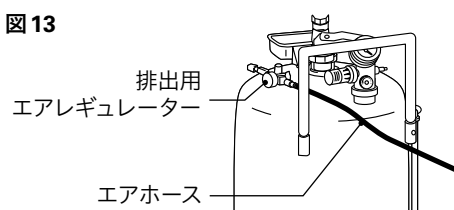


図14

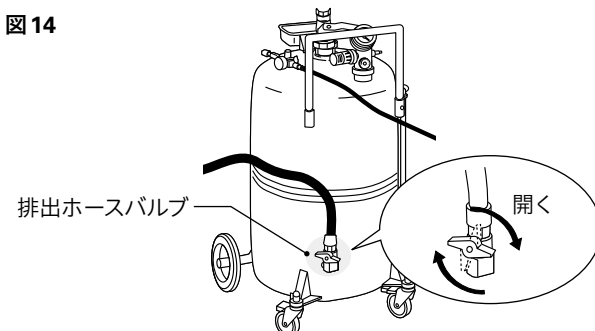


図15

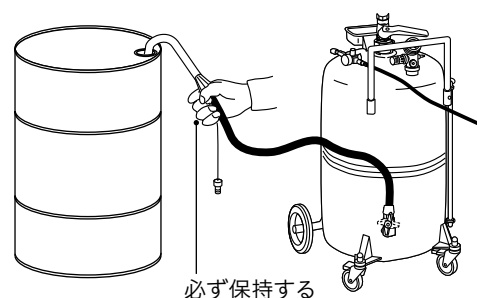
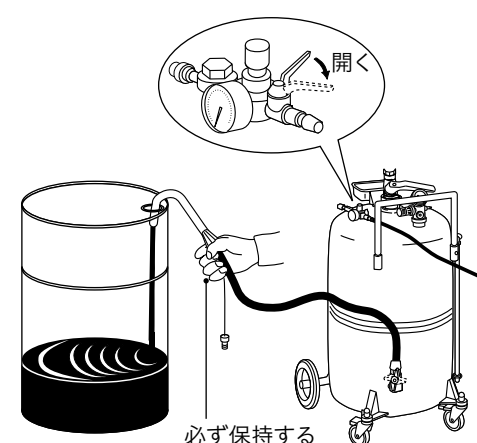


図16



トラブルチェックポイント

本来の性能が得られなくなった場合は、次の要領で確認してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達しない。

- A. 空気を吸っていることが考えられますので下記の点を確認してください。
 - 吸引ホースの吸引ノズルバルブを確実に閉じる。
 - 吸引ホースなどのつなぎ目が緩んでいる場合は、増し締めをする。
- A. 入力エア圧が不適切である場合が考えられます。
 - 推奨エアレギュレーター (※) を使用し、入力エア圧を 0.6 ~ 0.7 MPa (6 ~ 7 kgf/cm²) に調整する。

※ 推奨エアレギュレーターについては「■「廃油上抜き作業」時の使用方法」(16 ページ) を参照してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達したが、「廃油を吸引しない」または「吸引に時間がかかる」。

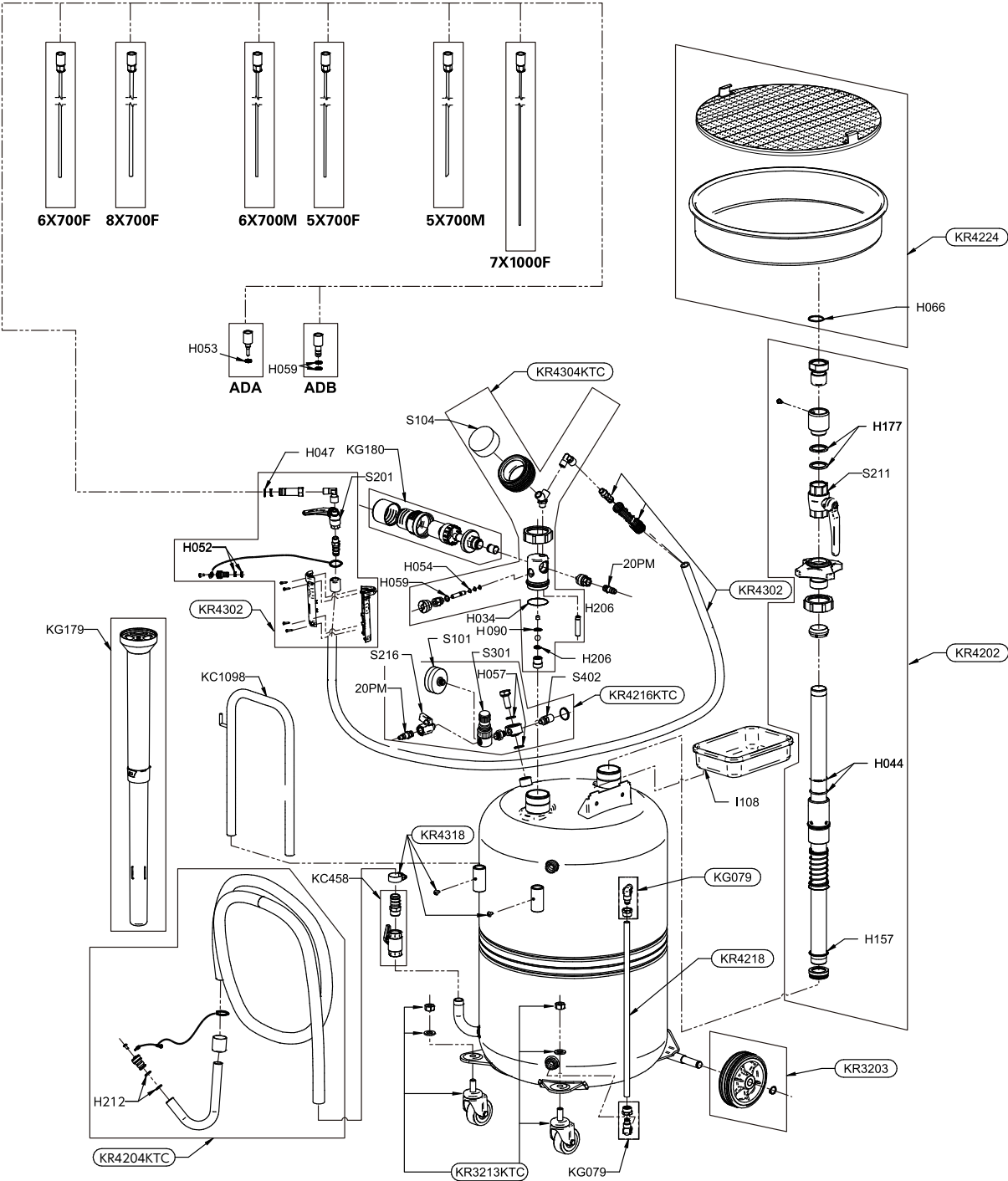
- A. 吸引ノズルやエジェクターのサイレンサー部、カプラ部に異物が詰まっていることが考えられます。
 - エアブロー等で清掃する。
- A. オイルが硬いことが考えられます。
 - 特に冬期はエンジンオイルが硬くなり、吸引に時間がかかる。作業を行う前に、水温が安定するまで暖機運転した後、エンジンを止めて作業をする。

補修部品



補修部品は必ず当社の純正品を使用する。

※部品図内の品番はすべて GOD-XXXXX です。
スペースの都合上「GOD-」を省略しております。



部品名称	部品品番	個数	部品名称	部品品番	個数	部品名称	部品品番	個数
アダプター A	GOD-ADA	1	排出ホースAssy	GOD-KR4204KTC	1組	Oリング	GOD-H034	1
アダプター B	GOD-ADB	1	排出用ホース用ホースバンド	GOD-KR4318	1組	Oリング	GOD-H044	2
フレキシブルノズルφ5×700mm	GOD-5X700F	1	レベルゲージパイプ (80Lタンク用)	GOD-KR4218	1	Oリング	GOD-H047	2
フレキシブルノズルφ6×700mm	GOD-6X700F	1	吸引ホースAssy	GOD-KR4302	1組	Oリング	GOD-H052	2
フレキシブルノズルφ7×1000mm	GOD-7X1000F	1	サイレンサー Assy	GOD-KG180	1組	Oリング	GOD-H053	1
フレキシブルノズルφ8×700mm	GOD-8X700F	1	エジェクター Assy	GOD-KR4304KTC	1組	Oリング	GOD-H054	1
メタルノズルφ5×700mm	GOD-5X700M	1	自在キャスターφ80 (ナット付)	GOD-3213KTC	1組	Oリング	GOD-H057	2
メタルノズルφ6×700mm	GOD-6X700M	1	エアレギュレーター用バルブ	GOD-S201	1	Oリング	GOD-H059	3
エアカプラ	GOD-20PM	2	排出用エアレギュレーター用バルブ	GOO-S216	1	Oリング	GOD-H212	2
トレイ	GOD-I108	1	流入バルブ	GOO-S211	1	Oリング	GOD-H066	1
排出ホースバルブAssy	GOD-KC458	1組	空圧計	GOO-S101	1	Oリング	GOD-H090	1
パイプハンドル (ストレート)	GOD-KC1098	1	真空計	GOO-S104	1	Oリング	GOD-H157	1
レベルゲージエルボAssy	GOD-KG079	2組	エアレギュレーター	GOD-S301	1	Oリング	GOD-H177	2
ノズルホルダー	GOD-KG179	1	安全弁	GOD-S402	1	Oリング	GOD-H206	1
固定キャスターφ150 (スナッピング付)	GOD-KR3203	1組	レギュレーター Assy	GOD-KR4216KTC	1組			
ボウル+落下防止ネット	GOD-KR4224	1	スライドパイプAssy	GOD-KR4202	1組			

GOD80B
GOD80E
GOD24B

小型オイルドレーナー「持てるくん」No. GOD24B

使用用途

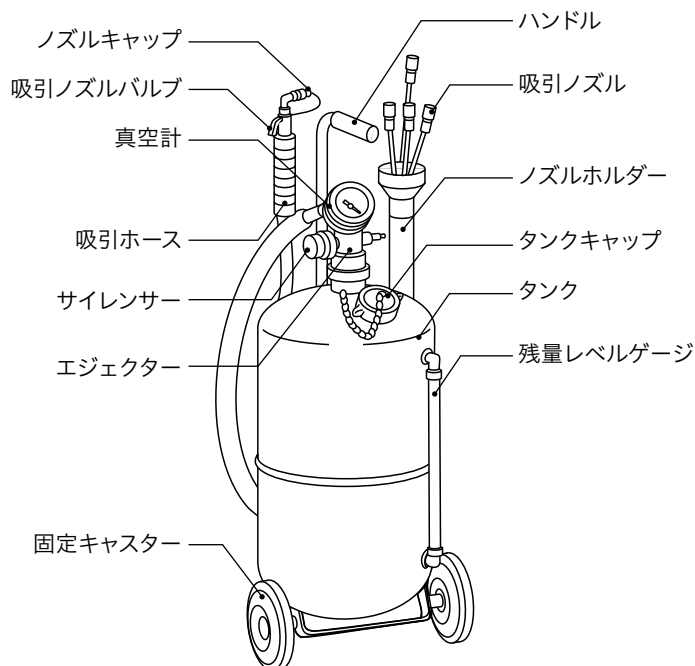
- 小型オイルドレーナー「持てるくん」No. GOD24Bは、自動車のエンジンオイル交換時に発生する、廃油抜き取り、搬送、排出作業を行うための自動車専用ツールです。
- 持ち運び可能な小型設計で、上抜き専用タイプです。
- 軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車に使用することができます。
- タンクにはレベルゲージを備えており、タンク内の残量を簡単に確認することができます。

梱包内容

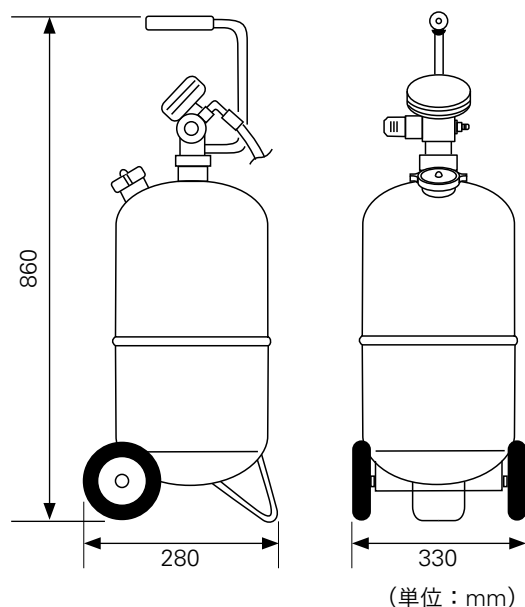
No.	名称	個数	付属吸引ノズル	品番	個数
①	タンク	1	吸引ノズルフレキシブルφ5×700	GOD-5X700F	1
②	タンクキャップ	1	吸引ノズルフレキシブルφ6×700	GOD-6X700F	1
③	パッキン(タンクキャップ用)	1	吸引ノズルフレキシブルφ7×1000	GOD-7X1000F	1
④	入力用エアカプラ	1	吸引ノズルフレキシブルφ8×700	GOD-8X700F	1
⑤	吸引ホース	1	吸引ノズルメタルφ5×700	GOD-5X700M	1
⑥	吸引ホース(グリップ)	1	吸引ノズルメタルφ6×700	GOD-6X700M	1
⑦	ハンドル	1	吸引アダプター VW用	GOD-ADA	1
⑧	真空計カバー	1	吸引アダプター BMW用	GOD-ADB	1
⑨	固定キャスター	2			
⑩	スナップリング	2			
⑪	サイレンサー	1			
⑫	ノズルホルダー	1			
⑬	残量レベルゲージ	1			
⑭	取扱説明書	1			

部位名称および本製品の仕様

■部位名称



■製品寸法



■適用

軽自動車から普通車、2tトラックまでの自動車

■仕様

品名	No.	タンク		キャスター径	入力用	吸引ホース	廃油排出方法	重量
		全容量	有効容量	固定	エアホース			
小型オイルドレーナー 「持てくるくん」	GOD24B	24リットル	20リットル	φ125	日東工器 20PM	φ19 全長2m	手動式	13.7kg

保管方法



- タンク内が常圧の状態保管する。タンク内が加圧した状態や減圧した状態で保管すると、負傷したり、製品が損傷したりするおそれがある。

- エアホースは取り外し、吸引ホースを巻き取ってハンドルにかけてください。
- 吸引ノズルはホルダーに収納してください。
- 長期間保管する場合はタンクの廃油を全容量排出し、転倒しないよう輪止め等でキャスターを固定させて保管してください。
- 平らな場所で保管してください。

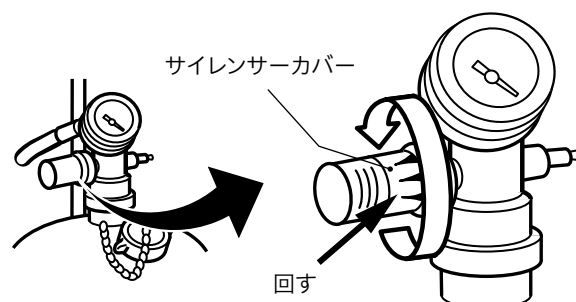
メンテナンス



- 長期間フィルターを清掃しなかったり、エアホースを接続したままの状態での廃油の吸引をしない。エジェクターのフィルター部より廃油のミストが吹き出すことがあり、人体にかかると、肌が炎症するおそれがある。また、負圧が高まらなくなるおそれがある。

- 定期的にエジェクターのサイレンサーカバーを取り外して汚れを確認してください。
- 汚れはお湯などで清掃し、十分に乾燥させてから取り付けてください。

■サイレンサーカバーの取り外し方法



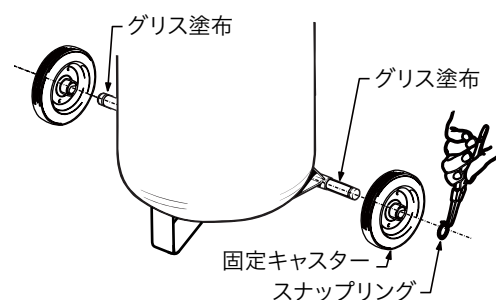
組立方法

- ① タンクの下部のシャフトに固定キャスターを取り付ける。
- ② 固定キャスターをスナップリングで固定する。



- 固定キャスターがスムーズに動かないときは、シャフトにグリスを少量塗布する。

■キャスターの取り付け方法



使用方法

■廃油の抜き取り方法

○抜き取り準備

- ① 水平で安定した場所にGOD24Bを置く。(図1)
- ② 作業を行う車両を、水温が安定するまで暖機運転する。

☒

- エンジン停止後、間もない場合はそのまま作業ができる。
- 暖機運転後は、水温が安定したらエンジンを停止し、手順③に進む。

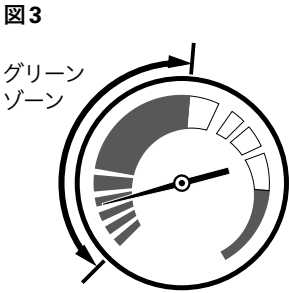
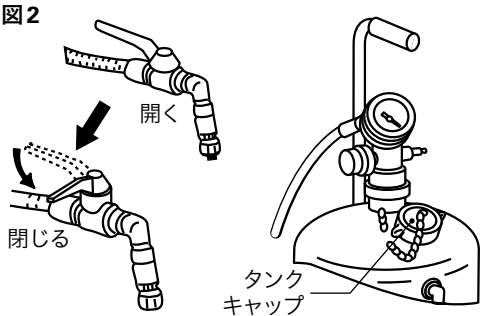
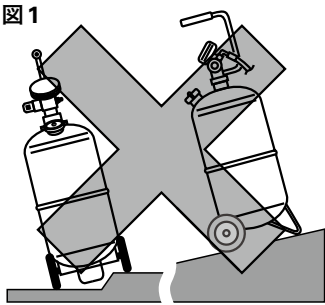
推奨エアレギュレーター

メーカー名	品番
SMC	ARX20-02 G46-10-02 (メーター)

- ③ タンク内の廃油を残量レベルゲージで確認する。
廃油を排出する場合は、「■廃油の排出方法」(23 ページ)を参照する。
- ④ エア漏れが発生しないように、吸引ノズルバルブ、タンクキャップを確実に閉める。(図2)
- ⑤ エアホースをエジェクターへ接続する。
- ⑥ 真空計の針がグリーンゾーンに到達し、針が安定したことを確認する。(図3)
- ⑦ エアホースを外す。
(エアホースをエジェクタから外してもワンウェイバルブが作動して負圧を保持するため、エアホースが届かない場所でも作業ができる。)

☒

- エジェクターは0.6 ～ 0.7 MPa (6 ～ 7 kgf/cm²) 付近で最高効率となる。末端のエア圧力が低い場合はグリーンゾーンへ到達しない場合があり、その状態で使用すると吸引時間が長くなる。
- 末端のエア圧力が高い場合も低い場合と同じ状態になるため、エアレギュレーターを使用してエア圧力を0.6 ～ 0.7 MPaに調整する。



○抜き取り作業

☐

- 吸引ホース、吸引ノズルをエンジンの排気管等からの高熱にさらさない。

☒

- エンジンの構造や、吸引ノズルの曲がり具合により、全量を吸引できない場合がある。
- メタルタイプの吸引ノズルは、ペール缶等の容器からの抜き取り専用のため、メタルタイプの吸引ノズルをエンジンに挿入しない。
- フレキシブルタイプの吸引ノズルでも太すぎるものを無理やりレベルゲージのガイドパイプに挿入しない。

- ① 作業を行うエンジンのオイルフィルターキャップを外す。
- ② レベルゲージを抜く。
- ③ 吸引ノズルを選択する。

☒

- レベルゲージの首下長さとガイドパイプの内径から、最適な太さと長さの吸引ノズルを選択する。
- 吸引ノズルの長さは、レベルゲージの首下長さより約5cm長めを目安とする。(図4)

- ④ レベルゲージのガイドパイプに吸引ノズルを挿入する。

☒

- 吸引ノズルは必ずオイルパン最低部に到達させる。

⑤ 吸引ノズルを少しずつ出し入れし、オイルパンに底当たりする位置で止める。(図5)

図4

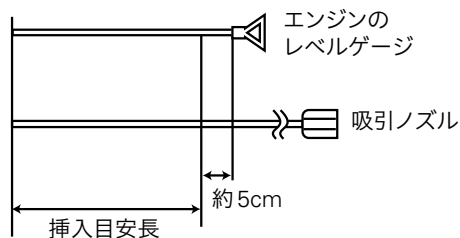
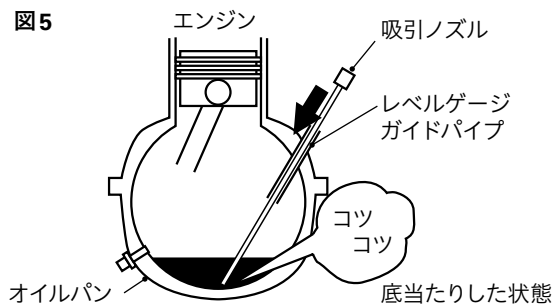


図5



⑥ 吸引ホースのノズルキャップを外し、吸引ノズルと吸引ホースを接続する。

⑦ 吸引ノズルバルブを開けて、廃油をタンクに抜き取る。

- ☑
- 残量レベルゲージを確認しながら抜き取り作業を実施する。廃油量が20リットルに達したら吸引を中止し、タンク内の廃油を排出する。排出手順については、「■廃油の排出方法」(23ページ)を参照する。

⑧ 吸引ノズル内を気泡が流れ始めたら、吸引ノズルをゆっくりと±5cm程度出し入れして吸い残しがないか確認する。

⑨ 吸引ノズルを出し入れして、再度廃油を吸引し始めたら、その位置で吸引ノズルを止め、⑧の作業を数回繰り返す。

⑩ 廃油の流れがなくなったら、吸引ノズルバルブを閉じ、吸引ノズルから吸引ホースを取り外してノズルキャップを装着する。

⑪ 吸引ノズルを抜き、レベルゲージをガイドパイプに戻す。

■廃油の排出方法

- ⊘
- 廃油満タン時はタンクが重くなるため、タンクを落とさない。高温のオイルが突出することにより、やけどを負ったり負傷したりするおそれがある。
 - 排出する際は急にタンクを傾けない。高温のオイルが一気に排出され、噴き出すことがある。(図6)

- ☑
- 排出作業は真空計の針が完全に戻っていることを確認してから行う。

要確認



真空計の針が完全に戻ってから廃油を排出してください。

① 吸引ノズルバルブを閉じる。(図7)

② タンクからノズルホルダーを取り外す。

③ タンクキャップを緩め、取り外す。(図8)

④ タンクを落とさないようしっかり持ち、廃油先(ドラム缶、廃油槽等)へ排出する。(図9)

⑤ 排出が完了したら、タンクキャップを閉じる。

図6

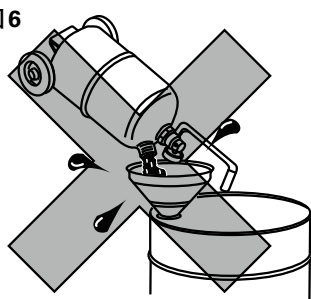


図7

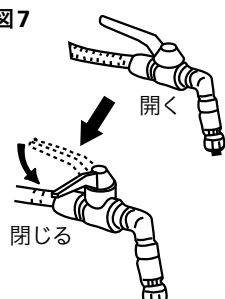


図8

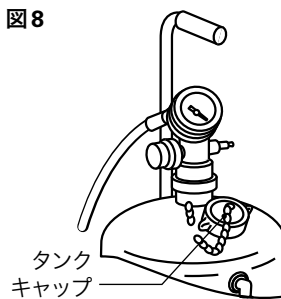
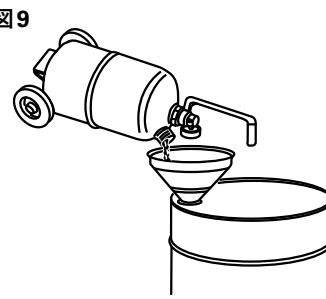


図9



トラブルチェックポイント

本来の性能が得られなくなった場合は、次の要領で確認してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達しない。

A. 空気を吸っていることが考えられますので下記の点を確認してください。

- 吸引ホースの吸引ノズルバルブを確実に閉じる。
- タンクキャップ内側のゴムパッキンがあることを確認し、キャップを閉めて密着させる。
- タンクの残量レベルゲージや吸引ホースのつなぎ目が緩んでいる場合は、増し締めをする。

A. 入力エア圧が不適切である場合が考えられます。

- 推奨エアレギュレーター（※）を使用し、入力エア圧を0.6～0.7 MPa（6～7 kgf/cm²）に調整する。
※推奨エアレギュレーターについては「■廃油の抜き取り方法」（22 ページ）を参照してください。

Q. 真空計の針がグリーンゾーンに達したが、「廃油を吸引しない」または「吸引に時間がかかる」。

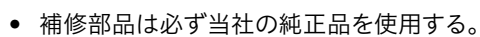
A. 吸引ノズルやエジェクターのサイレンサー部、カプラ部に異物が詰まっていることが考えられます。

- エアブロー等で清掃する。

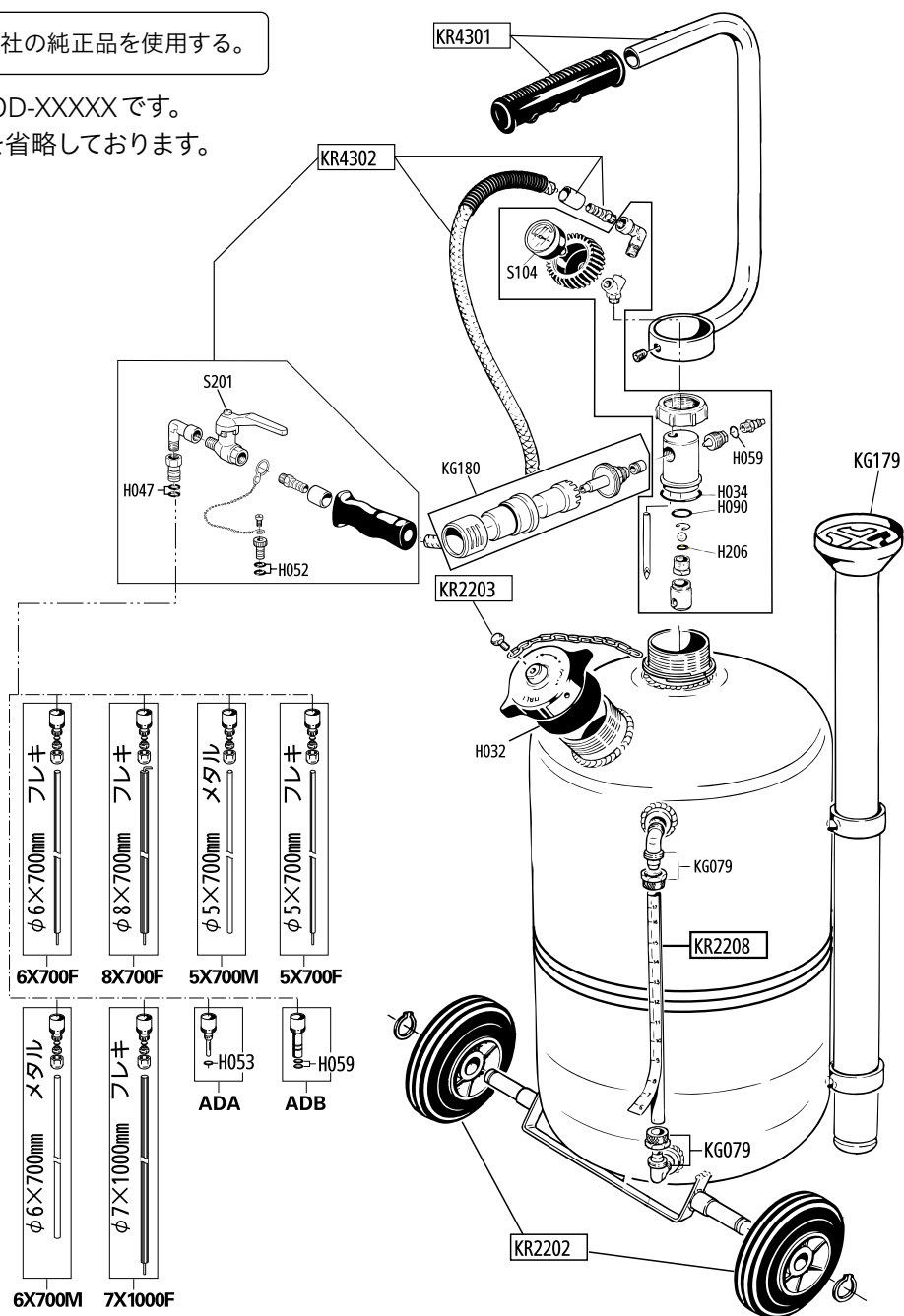
A. オイルが硬いことが考えられます。

- 特に冬期はエンジンオイルが硬くなり、吸引に時間がかかる。作業を行う前に、水温が安定するまで暖機運転した後、エンジンを止めて作業をする。

補修部品



※部品図内の品番はすべて GOD-XXXXX です。
スペースの都合上「GOD-」を省略しております。



No.	部品名称	部品品番	個数	No.	部品名称	部品品番	個数
1	アダプター A	GOD-ADA	1	15	ハンドル Assy	GOD-KR4301	1組
2	アダプター B	GOD-ADB	1	16	吸引ホース Assy	GOD-KR4302	1組
3	フレキシブルノズルφ5×700mm	GOD-5X700F	1	17	エアレギュレーター用バルブ	GOD-S201	1
4	フレキシブルノズルφ6×700mm	GOD-6X700F	1	18	真空計	GOD-S104	1
5	フレキシブルノズルφ7×1000mm	GOD-7X1000F	1	19	パッキン	GOD-H032	1
6	フレキシブルノズルφ8×700mm	GOD-8X700F	1	20	Oリング	GOD-H034	2
7	メタルノズルφ5×700mm	GOD-5X700M	1	21	Oリング	GOD-H047	2
8	メタルノズルφ6×700mm	GOD-6X700M	1	22	Oリング	GOD-H052	2
9	レベルゲージエルボ Assy	GOD-KG079	2組	23	Oリング	GOD-H053	1
10	ノズルホルダー	GOD-KG179	1	24	Oリング	GOD-H059	3
11	サイレンサー Assy	GOD-KG180	1組	25	Oリング	GOD-H090	1
12	固定キャスター	GOD-KR2202	1組	26	Oリング	GOD-H206	1
13	タンクキャップ	GOD-KR2203	1				
14	残量レベルゲージ Assy	GOD-KR2208	1組				

京都機械工具株式会社

〒613-0034

京都府久世郡久御山町佐山新開地 128 番地

お客様窓口 TEL 0774 45 4159 FAX 0774 46 4359

電話受付時間 10:00-12:00 13:00-16:00

土・日・祝日及び弊社休業日は除く

T076026-0
MADE IN ITALY



ktc.jp

※仕様および外観は改良の為、予告なく変更することがあります。